

研究会のあゆみ (2011年5月11日～2012年2月28日)

第160回：5月11日(水)

「人とモノをめぐるエージェンシー」第1回研究会

趣旨説明：越智郁乃(広島大学大学院総合科学研究科特別研究員)

発表者1：越智郁乃(広島大学大学院総合科学研究科特別研究員)

「墓と人のエージェンシーの可能性—現代沖縄の墓の変容を事例に—」

発表者2：楊小平(広島大学大学院国際協力研究科博士課程後期)

「原爆体験の展示におけるモノと平和への実践」

第161回：7月27日(水)

崔真碩(広島大学大学院総合科学研究科准教授)

「1936・東アジア・モダニズム：李箱文学について」

第162回：9月20日(火)

発表者1：ロジェ・ナターシャ(広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期)

「未婚者のパートナー探索行動と結婚難」

発表者2：河村新吾(広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期)

「西田天香の宗教教育論」

第163回：10月8日(土)

「人とモノをめぐるエージェンシー」第2回研究会

「土地と人のつながり～開発と地域社会をめぐるエージェンシー～」

(第25回 HiPeC 学内研究会「開発と地域社会をめぐるエージェンシー」「南アジアの宗教紛争」科研共催)

司会：外川昌彦(広島大学国際協力研究科)

報告1：中原聖乃(中京大学)

「原発に抗する社会—自立したコミュニティのための実践」

報告2：越智郁乃(広島大学大学院総合科学研究科特別研究員)

「土地を守ること—現代沖縄における米軍接収土地返還後の開発とエージェ

ンシー」

コメント

田中雅一（京都大学）長坂 格（広島大学総合科学研究科）

第 164 回：10 月 24 日（月）

「人とモノをめぐるエージェンシー」第 3 回研究会

テーマ「人を誘うモノ～インターフェイスがつなぐ人と情報～」

遠藤 潤一（広島国際学院大学 情報デザイン学部 情報デザイン学科）

「インターフェイスのデザイン –情報技術分野における視点から–」

第 165 回：11 月 16 日（水）

「性の文化人類学的研究～日本とパプアニューギニアの事例から～」

司会：阪野桂子（総合科学研究科博士課程前期）

発表者 1：中岡志保（社会科学研究科博士課程後期）

「『商売』と「仕事」ということばの意味の変容－関東の A 花柳界における芸者の日常会話を事例として」

発表者 2：新本万里子（総合科学研究科研究員）

「パプアニューギニア・アベラム社会における伝統的『家族計画』と身体観」

シンポジウム「資料から問い直す地域研究のあり方」：12 月 23 日（金）

開会挨拶（趣旨説明）：高井龍（アジア社会文化研究会会長、総合科学研究科博士課程）

セッション 1：テーマ「資料といかに向き合い、なにを読み解くか」

司会者：川口隆行（教育学研究科 准教授）

発表者 1：オレクサンドル・コバレンコ（総合科学研究科 博士課程）

「史料翻訳の問題点 –『信長公記』から見える歴史認識 –」

発表者 2：王 薇婷（総合科学研究科 博士課程）

「川端康成『禽獣』論 –文字で構築する空間をめぐって–」

コメント：崔 真碩（総合科学研究科 准教授）

討論

セッション2：テーマ「人とモノのエージェンシー：接触と身体感覚」

司会：長坂格（広島大学大学院総合科学研究科准教授）

発表者1：越智郁乃（広島大学大学院総合科学研究科特別研究員）

「モノの変化から見る墓と人の繋がり ―現代沖縄における墓の変容を通じて―」

発表者2：楊小平（広島大学大学院国際協力研究科博士課程）

「モノの力と感情の記憶 ―被爆遺品の事例を通して―」

発表者3：岡田菜穂子（広島大学アクセシビリティセンター 特任助教）

「高等教育機関における障害学生修学支援と ICT 活用についての人類学的研究の可能性」

コメント：床呂郁哉（東京外国語大学アジア・アフリカ言語研究所准教授）

セッション3：総合討論「私たちにとって資料とは何か」

司会：長坂格（広島大学大学院総合科学研究科准教授）

パネリスト：

王 薇婷（広島大学大学院総合科学研究科博士課程）

岡田菜穂子（広島大学アクセシビリティセンター助教）

越智郁乃（広島大学大学院総合科学研究科 特別研究員）

オレクサンドル・コバレンコ（広島大学大学院総合科学研究科博士課程）

川口 隆行（広島大学大学院教育学研究科准教授）

崔 真碩（広島大学大学院総合科学研究科准教授）

床呂 郁哉（東京外国語大学アジア・アフリカ言語研究所准教授）

福井 謙（仁済大学校専任講師）

楊小平（広島大学大学院国際協力研究科博士課程）

第166回：1月12日（木）

「人とモノをめぐるエージェンシー」第4回研究会

テーマ 「モノの今昔〜モノの作用と社会変化〜」

発表者1：新本万里子（広島大学大学院総合科学研究科研究員）

「生理用品と女性の身体—パプアニューギニアにおける月経期間の過ごし方から—」

発表者2：有松 唯（広島大学大学院文学研究科・日本学術振興会特別研究員 PD）

「古代社会におけるモノの作用—イラン国家形成期における葬送関連事物の機能的変化と社会変化—」

第167回：2月10日（金）

隠岐さや香（広島大学大学院総合科学研究科 准教授）

「アンシアン・レジーム期のフランスにおける『科学』の役割」

第168回：2月28日（火）

アジア社会文化研究会ワークショップ「台湾文化研究の動向」

司会：三木直大（広島大学大学院総合科学研究科教授）

発表者1：池上貞子（跡見学園女子大学教授）「齊邦媛『巨流河』をめぐって」

発表者2：三木直大（広島大学大学院総合科学研究科教授）「台湾現代詩の翻訳について」

コメント：

山口守（日本大学教授） 水羽信男（広島大学大学院総合科学研究科教授）

川口隆行（広島大学大学院教育学研究科准教授） 崔真碩（広島大学大学院総合科学研究科准教授）

バックナンバー目次

アジア社会文化研究 第1号
2000年3月

巻頭言

論説

朝鮮半島の南北分断と「敵対双方」の観光化	崔 吉城	1
台湾の祭祀圏と信者ネットワーク	上水流 久彦	13
「日語読本」に関する一考察	上田 崇仁	37

研究動向

観光人類学研究動向	李 良姫	55
-----------	------	----

書評

西成田豊『在日朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』	福井 譲	67
정재정『일본의 논리』(鄭在貞『日本の論理』)	鄭 泰峻	77

彙報

アジア社会文化研究 第2号
2001年3月

論文

朝鮮戦争における国連軍と売春	崔 吉城	1
日本植民地支配下における文学言説試論	桂 文子	17
現代韓国社会における火葬と「考」の理念	中村 八重	41

研究ノート

近代中国のリベラリズム	水羽 信男	55
-------------	-------	----

書評

佐藤由美『植民地教育政策の研究』	山田 寛人	75
------------------	-------	----

彙報

アジア社会文化研究 第3号

2002年3月

論文

韓国演戯の展開様相	尹光鳳	1
北朝鮮の対日外交の特質	福原裕二	17
韓国における‘国立墓地’の形成	池映任	47

研究ノート

在日韓国・朝鮮人における差別と国籍	金根五	63
-------------------	-----	----

資料と通信

林亨泰文学会議について	三木直大	81
-------------	------	----

彙報

アジア社会文化研究 第4号

2003年3月

論文

レザー・シャー独裁下の あるリベラルな政治家の役割と限界	吉村慎太郎	1
パキスタンの民族問題に関する一考察	近藤高史	30
在朝日本人二世の 朝鮮・朝鮮人に対する意識形成の研究	曹龍淑	50
1990年前後における台湾での同化教育について	安達信裕	81

研究ノート

フィリピン・ビサヤ民俗社会における 力・主体・アイデンティティに関する予備的考察	関恒樹	105
---	-----	-----

書評

山路勝彦・田中雅一編著『植民地主義と人類学』	崔吉城	122
洪郁如『日本の植民地統治と「新女性」の誕生』	上水流久彦	131
栗原彬・小森陽一・佐藤学・吉見俊哉編 『越境する知6 知の植民地：越境する』	桂文子	135

彙報

アジア社会文化研究 第5号 崔吉城先生退官記念号
2004年2月

巻頭言

崔先生退官記念特集

フィールドノートから	崔吉城	1
先生の学問を回想して	尹光鳳	12
崔吉城先生業績一覧		18

論文

ラジオ「国語講座」と「国語」教育	上田 崇仁	31
親族関係の分析にみる訃聞の資料的価値	上水流 久彦	44
日朝「平壤宣言」への道	福原 裕二	69
韓国国立墓地における戦死者祭祀に関する一考察	池 映任	97
チベットの山神崇拜と村落社会	別所 裕介	124
Bangladesh のイスラーム聖者廟における 歴史伝承と系譜的事実	外川 昌彦	146

研究ノート

1950年代日・米・台関係研究と台湾所蔵資料	前田 直樹	167
------------------------	-------	-----

研究動向

1940年代中国の都市と知識人	水羽 信男	182
-----------------	-------	-----

書評

삼인 『재일조선인 그들은 누구인가』 (サミン『在日朝鮮人 彼らはどういう人々なのか』)	福井 讓	194
--	------	-----

卒業生名簿

彙報

アジア社会文化研究 第6号

2005年3月

論文

プロト儀礼の体系	外川 昌彦	1
Bangladeshにおける開発援助と伝統工芸	岡田 菜穂子	43
中村地平『太陽征伐』論	阮 文雅	75
満州映画「風はこわい」考	崔 吉城	121

研究ノート

パキスタン・スィンド州における 「ムハージル」の変容	近藤 高史	137
-------------------------------	-------	-----

研究動向

小笠原学研究の現在	李 健志	151
-----------	------	-----

史料紹介

尾道乃木神社に関する覚書	八幡 浩二	171
--------------	-------	-----

彙報

アジア社会文化研究 第7号

2006年3月

論文

李恢成文学におけるサハリンの風景	金 在国	1
逃げ去る男たち	羅 玠旻	17
「日本語人」の群像	李 郁蕙	38
謝罪行為における差異	鄭 加禎	57
韓国の臓器移植における儒教	中村八重	74
隠岐島の伝承歌謡について	李 建志	92

研究ノート

英国教会伝道協会と J.R.ウォルフ に関する初歩的考察	マーティ ン・ウォード	108
---------------------------------	----------------	-----

書評

鄭雅英『中国朝鮮族の民族関係』アジア政経学会	権 春花	
	李 玉丹	125
権恵永『在唐新羅人社会研究』一潮閣	近藤 浩一	131
방기중 편 『일제 파시즘 지배정책과 민중생활』 혜안		
(方基中編『日帝ファシズム支配政策と民衆生活』慧眼)	福井 譲	140

彙報

アジア社会文化研究 第8号
2007年3月

論文

- | | | |
|--|--------|----|
| チベットの英雄叙事詩「リン・ケサル大王伝」と
地域伝統の再編をめぐる一考察 | 別所 裕介 | 1 |
| 庄司総一の『陳夫人』に見るハイブリッド文化の
葛藤 | 王 曉芸 | 39 |
| 中島敦と朝鮮 | 李 月順 | 67 |
| 台湾の古蹟指定にみる歴史認識に関する一考察 | 上水流 久彦 | 84 |

研究ノート

- | | | |
|-----------------|------|-----|
| 少数民族の集住地域から大都市へ | 金 成子 | 110 |
|-----------------|------|-----|

資料紹介

- | | | |
|--|-----|-----|
| 大森直樹『『満州事変』の中国東北教育への影響』
とその関連資料をめぐる | 周 軍 | 127 |
|--|-----|-----|

書評

- | | | |
|--|-------|-----|
| 土佐昌樹・青柳寛編『越境するポピュラー文化と
＜想像のアジア＞』めこん | 大久保 豊 | 136 |
|--|-------|-----|

彙報

アジア社会文化研究 第9号

2008年3月

論説

墓と故郷	越智 郁乃	1
武者小路実篤『若き日の思ひ出』論	楊 琇媚	29
中国の語文教育	三野 園子	49
アフガニスタン政治と国内統一原理の変転	古川 直樹	77

資料紹介

『見聞録』・『聖宗遺草』及び 『夜窗鬼談』と『聊齋誌異』との比較研究	陳 炳崑	115
---------------------------------------	------	-----

書評

松田康博『台湾における 一党独裁体制の成立』慶応義塾大学出版会	川原 絵梨奈	127
段瑞聡『蒋介石と新生活運動』慶応義塾大学出版会	水羽 信男	133

彙報

アジア社会文化研究 第10号

2009年3月

シンポジウム「地域研究を問い直す」特集号
(文理融合型リサーチマネージャー養成プログラム企画)

巻頭言ーシンポジウムの趣旨について

講演

グローバル化の時代の地域研究ーその魅力と意義 加藤 博 1

報告内容

戦争言説と近代文学に関する一考察 何 資 宜 4

フィールドとのかかわり方を考える 光武 昌作 9

エッセイ

「地域研究を問い直す」とはーシンポジウム参加記 水羽 信男 16

「地域研究者」の条件 吉村 慎太郎 18

地域研究に対する質問 その1, その2 荒木 一視 21

春風の中に坐するが如し 荒見 泰史 24

認識の再考ー地域研究を通じた現地との対話 上水流 久彦 37

文学研究あるいは言葉の教育と「地域研究」 川口 隆行 40

南アジア研究から見た地域研究の可能性 外川 昌彦 44

時間・民俗との出会い 丸田 孝志 49

シンポジウムを振り返って 三木 直大 52

論 説

「墓の移動」を通じた「沖縄」研究の再考 越智 郁乃 57

「竹島」に見る韓国・韓国人イメージ 福原 裕二 73

研究ノート

「新台湾人」の議論と政治意識をめぐって 川原 絵梨奈 103

書 評

高橋伸夫『党と農民ー中国農民革命の再検討ー』 丸田 孝志 115

研文出版

彙 報

アジア社会文化研究 第11号

2010年3月

尹光鳳先生退職記念号

尹光鳳先生退職記念特集

尹光鳳先生業績一覧

神楽との出会い	尹 光 鳳	1 5
論説		
舜子変文類写本の書き換え状況から見た 五代講唱文学の展開	荒見 泰史	12
中国都市部における民族教育に関する一考察 “変”から“変文”へ	金 成 子 高 井 龍	37 58
芥川龍之介の「河童」に見る「狂気」	陳 玫 君	83
ダライラマ14世の平和プランとチベット高原の “文化的領有”をめぐる検討	別所 裕介	108
国共内戦期冀魯豫区の大衆動員における 政治等級区分の民俗	丸田 孝志	133
研究ノート		
暦と韓国	崔 吉 城	162
『清平山堂話本』から探る敦煌変文の 後世の話本小説に与えた影響	徐 銘	167
書評		
張涌泉主編『敦煌經部文献合集』（中華書局）	荒見 泰史	180
李建志『日韓ナショナリズムの解体』（筑摩書房）	中村 八重	185
「20世紀中国」政治史一新刊2冊の紹介と書評	水羽 信男	189
尹光鳳『日本神道と神楽』（テハック社）	尹 祥 漢	195

桌 報

アジア社会文化研究 第12号

2011年3月

論説

バングラデシュの手工芸にみる社会関係 —手織布ジャムダニを事例に—	岡田 菜穂子	1
少年中国主義の成立と課題 —新文化運動期、王光祈の社会改革論	永見 和子	31
西サハラ問題の変容と国際社会—アフリカ最後の 「植民地」の自立と共存に向けて—	部谷 由佳	59

研究ノート

対中 ODA を巡る日本・中国の認識と中国報道	王 坤	81
-------------------------	-----	----

研究動向

「台湾人」意識の成立をめぐって	川原 絵梨奈	97
-----------------	--------	----

研究報告

近代中国「民間社会」史再考—日本との比較から	水羽 信男	107
------------------------	-------	-----

小特集

中国現代詩研究の現在	三木 直大	119
艾青と何其芳を考えていると 武田泰淳と木島始の幽霊が出てくる	宇田 禮	123

彙報

『アジア社会文化研究』投稿規程

1. 『アジア社会文化研究』の目的

『アジア社会文化研究』はアジア社会文化研究会において発表・議論された成果をもとに編集される論文集であり、2000年3月の創刊以来、これまで年1回のペースで刊行されている。同研究会は、アジア研究にかかわる者が専門分野の枠をこえて学際的に討論し研究の幅を広げることを目的に、広島大学大学院総合科学研究科に所属する教員および大学院生を中心に設立・運営されている。

2. 投稿資格

原則として本研究会の目的に適い、本研究会にて発表した者とする。なお編集委員会（ならびに院生の場合には当該指導教官）が質的に掲載に十分値すると認めた論文の投稿申し込みを受理し、掲載の可否については厳正な査読制をしくこととする。

3. 論文集完成までの過程

- (1) 投稿希望者は8月31日までに所定の用紙（「投稿申込書」）で申し込むこと（電子メールによる添付書式も可）。
- (2) 投稿希望論文の提出期限は11月1日までとする。
- (3) 投稿希望者は本年度の研究会において、投稿論文の主題に沿った発表を少なくとも一度以上行わなければならない。ただし海外居住者や遠隔地に居住する者、また長期に渡り海外での調査活動に従事している場合などは、編集委員会での審議を経たのちに、レジュメ等の提出で発表に代える。
- (4) 発表と投稿論文の提出を終えた者から随時、査読制による審査を受け、そこでの結果により、掲載の可否が決定される。
- (5) その後、編集作業（投稿論文の加筆・修正を要請することがある）を経て、翌年の3月末日に刊行する。

4. 執筆要項

(1) 掲載論文の種類および分量

- ①論説：16000～20000 字程度（400 字詰め原稿用紙で 40 枚～50 枚程度）
- ②研究ノート：12000 字程度（同 30 枚程度）
- ③研究動向・調査報告・資料紹介等：8000 字程度（同 20 枚程度）
- ④書評：4000 字程度（同 10 枚程度）

(2) 書式等

原則として「ワード」横書き（34 字×30 行）で、本文を記述する言語は日本語に限る。なお、引用など必要に応じた他言語の使用は認める。なお、規定の書式から著しく外れたものは投稿を受理できない場合がある。

(3) 原稿の提出方法と提出先

投稿希望者は上記①～④に該当する原稿を「ワード」またはテキストファイルで作成し、編集委員会宛に以下のものを提出すること。

- (a) 電子メールの添付ファイルもしくは CD-R など
- (b) 印刷したもの 1 部（直接・郵送いずれも可）

なお投稿申し込みが受理された場合、投稿者は編集委員会の指示に従うものとする。

5. 書式の設定

(1) フォント・文字サイズなど

タイトル	MS ゴシック フォントサイズ 11
章見出し	MS ゴシック
	1. 2. 3. ... (全角, フォントサイズ 10)
節見出し	MS ゴシック
	(1) (2) ... (半角, フォントサイズ 9)
本文	MS 明朝 フォントサイズ 9
数字・英文	章, 節見出し以外は全て「Century」
脚註	文末脚注 脚註番号は「アラビア数字」で設定

参考文献	必要に応じて「脚註」の後に別途に掲載
連絡先	論稿末尾に執筆者の電子メールを記載（希望者のみ）

(2) ページ設定

「ワード」：ツールバーの「ファイル」→「ページ設定」にて設定

文字数と行数	余白	用紙サイズ
文字数 34	上 30mm	用紙サイズ A4 印刷の向き 横
行数 30	下 30mm	
フォント MS 明朝	外 20mm	
フォントサイズ 9	内 25mm	
段数 1	とじしろ 0	
横書き	ヘッダー 15mm	
	フッター 17.5mm	
	印刷の向き 袋とじ	
	とじしろの位置 横	

問い合わせ（編集委員会）

アジア社会文化研究会代表：三木直大（広島大学大学院総合科学研究科教授）

naomiki@hiroshima-u.ac.jp

アジア社会文化研究会：asiasyabunken-owner@yahoogroups.jp

『アジア社会文化研究』（第 号）投稿申込書

年 月 日

名 前	フリガナ
	日本語名
	英語名
所 属	
連 絡 先	住 所
	電 話
	E-mail

1. 投稿を希望する原稿の種別（○をつけて下さい）

論説		研究 ノート		研究 動向		資料 紹介		書評	
----	--	-----------	--	----------	--	----------	--	----	--

2. 原稿題目（仮題目でも可）

日本語（主題と副題）
英語（主題のみ）

3. 原稿要旨（400～600字程度で記入して下さい）

執筆者紹介（掲載順、重複割愛）

- 高井 龍 広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期／日本学術振興会・特別研究員 DC
- 王 薇婷 広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期
- オレクサンドル・コバレンコ 広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期
- 越智 郁乃 広島大学大学院総合科学研究科特別研究員
- 楊 小平 広島大学大学院国際協力研究科博士課程後期
- 岡田 菜穂子 広島大学アクセシビリティセンター特任助教
- 崔 真碩 広島大学大学院総合科学研究科准教授
- 床呂 郁哉 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授
- 大久保 豊 広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期
- 阪野 桂子 広島大学大学院総合科学研究科博士課程前期
- 中原 聖乃 中京大学社会科学研究所研究員
- 遠藤 潤一 広島国際学院大学情報デザイン学部講師
- 西井 美穂 広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期
- 陳 諭霖 台湾國立高雄第一科技大學応用日本語系准教授
- 羅 玠旻 広島大学大学院国際協力研究科博士課程後期単位取得退学
- 柯 惟惟 広島大学大学院総合科学研究科博士課程後期

編集後記

本誌 13 号は、シンポジウム「資料から問い直す地域研究のあり方」の特集号として刊行されました。これは、大学院総合科学研究科の「リサーチマネージャー養成プログラム」の助成を得た、本誌の第 10 号に続く企画第二弾となります。そして、大学院生がより主体的に企画・立案したシンポジウムの成果として、興味溢れる新鮮な論考を数多く掲載できたことが、前回と引き比べた際の今回の特徴であるといえます。次世代を担う若手研究者の学問的なひたむきさを感じない訳にはいきません。頼りないながらも、編集作業の取りまとめを担った者として、こうした彼らに心から感謝する次第です。

ところで、2010 年末から翌 11 年にかけてチュニジア革命から、エジプト、リビア、イエメンなどでの一連の独裁的政権崩壊という事態が目撃されました。言うまでもなく、日本では未曾有の悲惨な被害を出した東日本大震災と津波、それに続く福島第一原発事故が発生しました。その後もいっこうに改善されない被災地域の状況に加え、報道される世界各地での厳しい現実を目の当たりにするにつけ、今私たちはおしなべて混沌の渦中にあることを感じない訳にはいきません。

「オリエンタリズム」を世に問うた故 E. サイドは、「知性による悲観主義、意志による楽観主義」を好んで使ったと言われています。政治への信頼喪失はもとより、国策の犠牲者が広く地球上に見られる現状の中で、今回寄稿くださった院生や若手研究者には、こうしたサイドの言葉を想起してもらえればと思います。強い意志を持って悲観主義に陥りがちな知性を補強し、日本を含めた明るいアジアの、そして世界の将来像の構築に向け、今後も積極的に研究活動を継続してもらえたらと期待するからです。そして、『アジア社会文化研究』も、そうした学問的営為に少しでも貢献できるように、また力強く知性を発揮する場であり続けることを、編集者の一人として願って止みません。

(吉村)

編集委員：吉村慎太郎（編集委員長）

大久保豊 越智郁乃 高井龍 楊小平 西井 美穂 新本万里子
荒見泰史 高谷紀夫 崔真碩 外川昌彦 長坂格 丸田孝志
三木直大 水羽信男

アジア社会文化研究 第13号

シンポジウム「資料から問い直す地域研究のあり方」特集号

2012年3月28日

アジア社会文化研究会

広島大学大学院総合科学研究科内

Eメールアドレス：asiasyabunken-owner@yahooogroups.jp

HP アドレス：http://ajiashakaibunka.blog42.fc2.com/

〒739-8521 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号

編集委員会連絡先

広島大学大学院総合科学研究科・総合科学部内 三木直大

電話082-422-6356（三木研究室）

Eメールアドレス：naomiki@hiroshima-u.ac.jp

〒739-8521 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号